

医療法人 光晴会病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題	糖尿病外来における認知症サポートチーム介入の有効性
所属（診療科等）	外来
研究責任者 （職名）	福田 康恵 （看護師）
研究目的	少子高齢社会を迎え、糖尿病外来においても認知症を合併する症例が増加している。認知症患者の支援は病院のみならず、社会的にも重要な課題である。当糖尿病外来では、認知機能低下が認められる症例に対し、認知症看護認定看護師が中心となり、院内外の多職種で連携し取り組みを行っている。この認知症サポートチーム介入の症例を後ろ向きに調査し、今後の課題をあげる。
調査データ 該当期間	2020年3月1日～2023年9月1日
研究内容	<p>[目的]糖尿病に認知症を合併した症例を支援する認知症サポートチームの介入症例を分析し、介入の有効性を明らかにしたため報告する。</p> <p>[方法]対象は25例（年齢82.4 ± 7.12歳）で9名に地域ケア会議を開催した。支援体制が確立し血糖値が安定した11名はチーム介入を終了とした。</p> <p>[結果]MMS E22.48 ± 5.56点で日常生活に支障がない患者であっても、服薬管理や食事管理が必要であった。地域ケア会議の有無別にみたHbA1c改善率はケア会議開催群が非開催群に比べ$21.18 \pm 4.34\% \text{ VS } 6.26 \pm 3.25\%$（$p < 0.01$）と有意に改善した。チーム介入継続の有無別にみたHbA1c改善率は継続群が非継続群に比べ、$17.74 \pm 14.59\% \text{ VS } 3.85 \pm 3.97\%$（$p < 0.01$）と有意に改善していた。</p> <p>[総括]糖尿病に認知症を合併した症例に対する支援に、ケア会議の開催や認知症サポートチームの継続した介入が重要で、HbA1cの改善に繋がることが明らかとなった。</p>
個人情報の 取り扱い	症例は個人が特定されない形で報告する旨、患者と患者家族へ口頭で説明し了承を得た。またデータ漏えいを防止するため、作業はすべて院内で行う。
本研究の資金源 （利益相反）	なし
お問い合わせ	病院代表：095-857-3533（内線：2215） 担当者：総務課（戸田）